

1

ウ
早く
ん。

A エ
B ア
C イ
D バラツキ

答えの
ギザギザが少

(記述題)
もつとも便利
ウ

イ
ウ
エ

格
言
面
積
結
果

一
気
使
命
自
負

の
も
と
与
し
小
さ
く

(記述題)
イ
一
番
ウ
小
手

な
け
れ
ば
な
い
I 苦
II 黒
III 世

1

黄色い花に集まりやす
いアブなど昆虫を呼
び寄せられるから。

見た目が華やかなケーキの味を、一刻
も早くたしかめたかったから。

(同意可)

(同意可)

配点	
19・10 21・2	各2点×12=24点
16 25	各6点×2=12点
その他	各4点×16=64点
100点	

1

文章全体や段落の初めに使われる問いかけの形は、読者にその後の話への興味を持たせる目的で使われていることが多い。

2 線②の直後の段落にある「このせっかちな種子とのんびりとした種子は、どちらがより優れているのでしょうか」という問いかけから、早く芽を出す場合のメリットとデメリットが説明されている。ここでは不利な場合が聞かれているので、「一方」から後の「まだ環境が整っていない」ことや、「人間に草取りされてしまう」ことについて書かれている部分を答える。

3 Aは二つの種子があることを説明した後で、その優劣についての説明に移っている。エの「それでは」がはいる。Bは「性格の異なる」二つの種子を用意していることを、「種子に『個性』を持たせている」と言いかえているので、アの「つまり」がはいる。Cは「目の数は誰もが二つ」であることを確かめた後で、「私たちの顔はみんな違います」と説明している。イの「しかし」がはいる。

4 I 線③から読み進めていくと、「個性を持たせている」ことが、「どちらもあること」や「バラバラな性質を持っていること」だと書かれている。「バラバラな性質を持っている」ことを四字で言いかえた言葉を探すと、「バラツキ」が見つかる。

II ②の文をヒントに「どのような問題を乗り越えようとしているのか」と文章をたどっていくと、「答えのないものに対して、自然界の生物は『バラバラであること』で乗り越えようとしている」が見つかる。Iでも問われていたように、「個性」とは「バラバラであること」なので、②の文とこの文が同じことを説明していると考えられる。

5 線④の続きを読み進めていくと、タンポポの葉っぱの形がバラバラである理由を説明する形で利点が説明されている。

6 線⑤の直前に、「そのため、タンポポの花は黄色い色をしているのです」と説明されているので、「そのため」の前の二文が「花の色」について「黄色が正解で」ある理由と考えられる。

7 「(人間の) 指の数が五本」であることは、線⑤の二行後から書かれていた。その中で五本に進化した理由にあたる利点を探していくと、「指は五本がもっとも便利です」と書かれている。

8 ②の文に書かれている「その理由」が何の理由であるかを考えることも大切だが、ここではウのところは元の文がないと直後の「しかし」が何に対しての逆接の内容なのがわからなくなっていることから、ここが答えではないかと思いがつけられる。

9 X「善は急げ」もY「先んずれば人を制す」も「ものごとは早く始める方がよい」という意味のことわざである。Zの「急いで仕事をし損じる」は「あわてて取り組むと失敗する」という意味のことわざである。

10 a「格言」は昔の人の残した教訓が短くまとまった言葉のこと。b「面積」は「面」の一画目、二画目、三画目を続けて書かないように気をつけよう。「積」と「績」も混同しないように注意しよう。c「結果」は「結」のいとへんの画数に気をつけよう。

2

1 a「一気」は一息に、ということ。b「使命」は「指名」や「氏名」などの同音異義語と取り違えないように気をつけよう。c「自負」は自分の能力に自信を持っているという意味である。「負」の一画目と二画目が「マ」のような形にならないように注意しよう。

2 Xはどれもこれも、Yはものごとをうまく処理すること、Zはどうでもいいことだ、という意味である。

3 ヒロミが弥生を採用したことについては、文章の後半でくわしく説明されていた。弥生はヒロミの「片腕として抜擢」されたが、それは「ヒロミの味の後継者としてではなく、あくまでも与しやすい便利屋として」だったのである。

4 線②の直前にある「二十歳そこそこの娘が口にしそうな抱負」を、「弥生は本気で」実現させたかったのである。弥生が持っている抱負については直前の部分で弥生自身が語っていたが、「ここより後の部分から」という指示にそって、同意の部分を後から探そう。

5 フォークを握るのはケーキを食べたいからである。「緊張で口のからからだった弥生」がアールグレイの紅茶を飲むより早くフォークを手にしたことをふまえて、食べたい気持ちを強調した答えがよいだろう。

6 「極上の賜りもの」であると言ええるヒロミのケーキを、市販のケーキと同列に語ってしまい、ヒロミの自信作をけなしたような形になったのである。ヒロミからすれば、弥生は自分の手作りケーキを他人が作ったかと思っっているようにも聞こえただろう。

7 「与しやすい便利屋」がほしいヒロミは、弥生が働きたいお店がまさに自分の店であると、弥生にアピールしたのである。⑤の後にある「贈ってくれる」という言葉も、答えを探すヒントになっただろう。

8 ヒロミについては「相手：など無視し、力業で：」や「ヒロミの発する強烈なパワー」など自信家で押し強い性格が描かれていた。

9 文章の冒頭に、「自由が丘店」は「手始めに」「勝負をかけ」る目的でオープンする「小手調べ」の店であると書かれていた。

10 直前の「あればあったで便利」だという内容に対応している。ケーキショップ以外の施設は無理して用意しなくてよいのである。

11 弥生が今の自分の仕事をどうとらえているかは、文章の終わりにまとめられていた。弥生の役割は「与しやすい便利屋」であり「黒子として店を支え」ることであるが、そんな中でも弥生が自負心を持てるのはヒロミのケーキが「そこにしかない」「本当においしいお菓子」だからであり、それを多くの人に食べてほしいのである。

以上